

G空間プロジェクトの御紹介

G空間プロジェクトとは

モバイル技術なセンサー技術などの発達によって、従来のテキスト中心のウェブ情報に比べ、動画像情報、センサ情報、シミュレーション情報などの利用が高まっています。これらの情報には、必ずと言っていいほど「いつ、どこ」の情報が付与されています。この「いつ、どこ」という情報を地理空間情報ととらえ、その高度な利用を通じた新サービスの創出を目指しているのが、経済産業省G空間プロジェクトです。

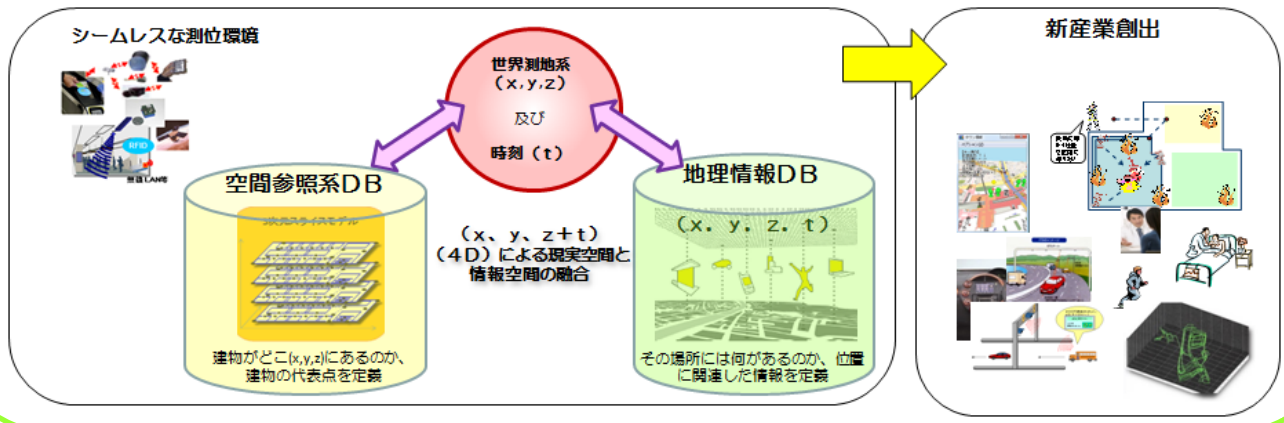
G空間プロジェクトを構成する3要素

G空間プロジェクトは、

- (1) 情報到達コストの圧縮のための3次元空間モデルの構築
- (2) (緯度、経度、高さ、時間)による情報の体系化
- (3) シームレス測位の利用環境の整備

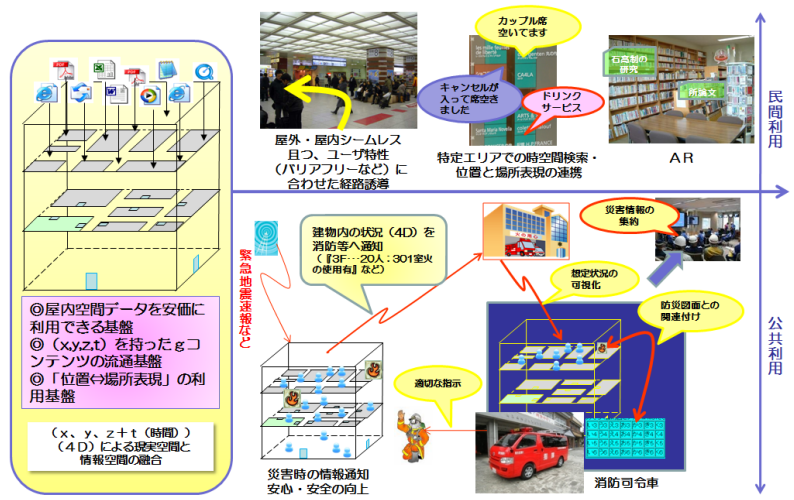
から構成されています。

また、位置情報と場所表現を関連づけるPI (Place Identifier) の国際標準化も推進しています。



ユースケース例

屋内空間のデジタル化の促進や、屋内測位の普及によって、平時はサービスに利用し、緊急時には防災や減災に役立つなど、期待が高まっています。



G空間プロジェクトの公開実験・シンポジウム

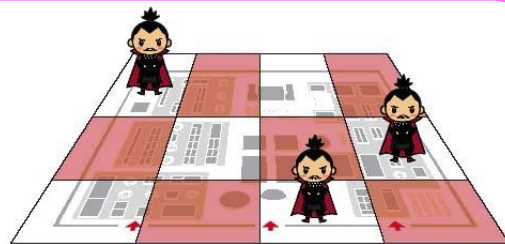
G空間EXPO期間中、展示と公開実験を行っています。
会場のパシフィコ横浜の3次元空間モデルを作成し、展示会場内に、測位に用いる無線LANアクセスポイントを60か所に設置しています。その環境の中で、屋内測位や屋内モデルを利用した場合の利便性を実感してもらうための公開実験を行っています。

公開実験1：展示場内スタンプラリー

＜携帯スタンプラリーによる集客サービス＞

会場内に設置された屋内測位環境によって場所を把握し、stampを押すというゲーム感覚の公開実験です。

この実験では、屋内測位によって、現実の展示場と情報空間上の展示場を関係づけることで屋内図取りゲームや、ナビゲーションなどへの利用可能性を体験できます。



実施企業：マピオン

公開実験2：つばやきの可視化

＜リアルタイム3次元地理空間情報DB＞

リアルタイムWebサービスとして代表的な「Twitter」上で、G空間EXPOの各展示エリアやイベント/セミナーに対し言及されたコンテンツを可視化する公開実験です。

ここでは、測位技術を用いずにリアルタイム発信される位置表現を伴う情報を、3次元上に可視化してみることができます。

この実験を通じて、様々なWeb上のコンテンツを、場所と時間で集積させることで、新しいマーケティング手法が確立するのではないかと期待されています。



実施企業：インディゴ

公開実験3：施設マップ上でのナビゲーション

＜屋内測位技術およびモバイルARマーケティングツール＞

スマートフォン用のアプリを配信し、ARと屋内測位技術を用いて、現在地、目的地、目的地までのルート、進行指示を行います。

これによって、迷いやすい地下街などの案内サービスや行動喚起、屋内での災害時避難誘導への応用が期待されています。



実施企業：クウジット

シンポジウム「G空間活用サービス産業がもたらす、社会的意義と今後の展望」開催

日時：平成22年9月21日（火） 10:00～12:00 開場：9:30

場所：アネックスホールF202

登壇者	演題
経済産業省 審議官 渡辺様	G空間プロジェクト～G空間活用サービス産業の将来ビジョン～
(独)産業技術総合研究所 内藤様	サービス現場の見える化で生産性向上
東京急行電鉄(株) 金山様	渋谷pin@clip実証事業の成果と今後の展開
(株)博報堂DYメディアパートナーズ 上路様	テレビ番組と連携する位置情報サービスと地域活性への応用
(株)マピオン 浜矢様	バーチャルと現実をつなぐ位置情報サービスの有効性
ディー・フォー・ディー・アール(株) 藤元 様	e&G空間市場の可能性